

遊休地活用プロジェクト「畑ラボ」

代表：増田侑十（農学部食料生産環境学科一年）

顧問：小野寺純治（COC推進室）

活動目的

岩手含む東北を中心に増加している耕作放棄地を、地域課題として県内の方々や岩手大学生に認知してもらうため、時間のある大学生が遊休地を活用し、活動を通して課題解決への取り組みや、地域課題の理解を取り組む。学生としては学内の生活では関わりにくく、身近であっても体験する機会が少ない農業を、私たちの活動に関わってもらうことで経験してもらう。

特に、活動を通して、普段の学内活動だけでは取り組みめない事柄について学ぶことを本活動では主な目的として取り組んでいます。



活動内容

今年度は、岩手県内の滝沢市、雫石町、盛岡市の羽場にある遊休地を畑の持ち主からお借りし、野菜の栽培を中心に組み合わせてもらいました。その3つの畑で、計6品目を今年度は試験栽培させて頂きました。また、遊休地の周知を目的とした、イベントの企画を、盛岡市のりんご農園さんと協力し考えさせて頂きました。

また、矢幅のりんご農家さんから協力の要請を受け、定期的にリンゴの作業を手伝わせてもらいました。その中で、現在は農地である土地も遊休地になる可能性があるという事実に関体のメンバーだけではなく、一般の岩手大学生も実際に体感してもらうことに成功しました。



地域の声

遊休地に関わる取り組みをさせて頂く中で、使われていない土地を持っている方が多く、自分達の土地も使って欲しいと要望のある方も多くいる程、耕作放棄地に着目した活動は評価されていると感じます。また、団体が協力させて頂くイベントの中で、岩手出身でも、遊休地が増加している現状を知らなかった人が多いことを知り、今後の周知の重要性を感じます。

さらに、団体の活動に参加してくれる学生は日常では経験し得ない農業を取り組むことができ、当団体の存在を肯定的に評価して下さることが多く、意欲的に活動に協力して下さる方に支えられています。



今後の活動

今後は自分達が取り組み遊休地を通して、地域課題の内容を外へ発信していきたいと考えております。

特に、メディアを通して、一般の方にも、岩手の地域における耕作放棄地増加を周知してほしいと考えています。また、学生の農業体験の機会を増加させることにも力を入れ、活動を通して、地域課題の認知だけではなく、学生が新たな活動に取り組む機会として、当団体の活動で積極的な参入ができるようにしたいと考えております。今年度で兆しが見えた一般の方への耕作放棄地の興味を来年度はより広い範囲に知ってもらい、農業の魅力を発信しながらも、遊休地増加の広報を心がけたいと思います。

